

第 13 回小牧市東部まちづくり審議会 議事録

1 開催日時

令和 6 年 10 月 21 日（月）午後 2 時 00 分から午後 4 時 00 分まで

2 開催場所

小牧市役所 本庁舎 6 階 601 会議室

3 出席委員（名簿順）

増田 昇（会長）	大阪府立大学名誉教授
大塚 俊幸（職務代理）	中部大学教授
和田 貴充	空き家活用株式会社代表取締役 CEO（オンライン）
舟橋 拓馬	一般社団法人小牧青年会議所
田中 秀治	社会福祉法人小牧市社会福祉協議会
坪井 和巳	小牧商工会議所
前野 正子	小牧市小中学校 PTA 連絡協議会
落合 勝之	陶小学校区地域協議会
深堀 修	篠岡学区地域協議会
佐藤 章子	光ヶ丘小学校区地域協議会
小柳 松夫	桃ヶ丘小学校区地域協議会
西尾 貞臣	大城小学校区地域協議会
古園井 直紀	公募委員
原 正行	公募委員
三木 孝行	公募委員
宮脇 稔	公募委員

4 欠席委員

古池 嘉和	名古屋学院大学教授
横山 幸司	滋賀大学教授
川井 則昌	尾張中央農業協同組合
秦野 利基	こまき市民活動ネットワーク

5 出席オブザーバー

愛知県交通対策課
独立行政法人都市再生機構
一般社団法人桃花台センター

6 欠席オブザーバー

愛知県営住宅管理室

7 事務局

鵜飼 達市	都市政策部長
舟橋 朋昭	都市政策部次長
林 孝政	都市政策部東部まちづくり推進室長
丹羽 智則	都市政策部都市計画課長
川島 充裕	都市政策部都市整備課長
西島 春恵	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係長
馬庭 貴彦	都市政策部都市計画課 都市計画係長
服部 達也	都市政策部都市整備課 交通政策係長
林 亮佑	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係専門員
立山 由希子	都市政策部都市計画課 都市計画係主任
渡辺 利樹	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係主事

8 傍聴人数 2名

9 会議内容

1 開会

あいさつ

2 議題

(1) 東部まちづくりの進捗状況について

3 報告

(1) 小牧市都市計画マスタープラン（地域別構想：東部地域）について

(2) 小牧市地域公共交通計画について

(3) 自動運転実証調査事業について

(4) その他

4 閉会

■議事録

【都市政策部次長】

委員の皆様おそろいですので、これより会を開催させていただきます。

本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

ただいまより、第13回小牧市東部まちづくり審議会を開催させていただきます。

私は都市政策部次長の舟橋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに資料の確認をさせていただきます。本日の配付資料は次第に記載したとおりでございます。ご確認いただきご不足等ございましたらお申し出いただきますようお願いいたします。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに増田会長よりごあいさつをいただきたいと思います。

【会長】

皆さんこんにちは。

この会議が開かれるのは前回から半年ぐらいになります。秋は毎週土日にいろんなイベントがあつてお忙しいことと思いますが、また本日もよろしくお願いします。

【都市政策部次長】

ありがとうございます。ここでご報告申し上げます。本日の出席委員数は16名でございます。従いまして、小牧市東部まちづくり審議会条例第6条第2項の規定により本会議は成立いたしております。

それでは以後につきましては小牧市東部まちづくり審議会条例第5条第2項に基づき、会長が会務を総理することとなっておりますので、増田会長にお願いしたいと思います。会長、よろしくお願いします。

【会長】

それではここからの進行を増田の方でさせていただきます。

お手元の次第に基づいて進めて参りますが、本日は議題が1件、報告案件がその他も含めて4件と結構報告案件がございます。順次進めて参りたいと思いますのでよろしくお願いします。

議題の1番、東部まちづくりの進捗状況についてご報告をお願いします。

【東部まちづくり推進室長】

東部まちづくりの進捗状況につきまして説明させていただきます。資料番号の2番、3番、4番を用いまして、順に説明をさせていただきます。

「資料2 東部振興構想の進捗状況について」をご覧ください。

東部振興構想に掲げる将来像の実現に向け様々な取組が行われてきておりますが、振興構想では指標を設定し、進捗状況を確認することとしております。資料2では各指標の現状値

を取りまとめております。

はじめに 1 の KPI 重要業績評価指標です。

東部振興構想の成果指標として、国勢調査の結果をもとに算出した東部地域の生産年齢人口割合を KPI として設定しています。

目標値は計画の中間となる 5 年後の令和 8 年度と 10 年後の令和 13 年度であり、令和 8 年度については将来人口見通しで示す令和 7 年推計値の 53.0% を 1% 上昇させた数値、令和 13 年度については、令和 12 年推計値の 48.7% を 2% 上昇させた数値としています。

今回の国勢調査が来年実施予定であるため、現状値は前回令和 2 年実施の国勢調査結果となりますが、令和 2 年推計値の 57.8% に対し 58.3% となっており、0.5% 高い数値となっています。

次に 2 の KPI の達成に向けたヴィジョンごとの参考指標です。

市民意識調査の数値を指標としているものから説明します。

ヴィジョン 1 の「高齢者」で、生きがいを持って暮らしている 65 歳以上の住民の割合については 79.3% です。

「子育て世代」で、安心して子育てができると思う 20 歳代から 40 歳代の割合については 84.6% で約 13% と大きく上昇しております。

市が進めている子育てしやすいまちづくりを実感されている方が増えているものと分析しています。また回答の集計方法ですが、令和 3 年調査では子育てに該当しない方の回答も含めた集計であるのに対し、令和 5 年は該当される方のみとし、実際に子育てをされている方の回答を集計することに変更したことも上昇の要因の一つであると考えております。

次に「都市インフラ」で、週 1 回以上公共交通機関を利用している地域住民の割合は 15.6% です。

続きまして右側の表ヴィジョン 3 をご覧ください。

「住民活動」で、区や市民活動団体などが開催する活動に過去 1 年間で 1 回以上参加したことがある地域住民の割合については 26.6% です。こちらの指標は、市民意識調査の設問が令和 3 年調査では「1 年間に区や市民活動団体の活動に参加したことがありますか？」の 1 問であったものが、令和 5 年は「市内の公益的活動に参加したことがありますか？」と「区や区を単位とした地域活動に参加したことがありますか？」の 2 つに分けられたことから、2 問両方もしくはどちらか 1 問にはいと回答した方の合計にて割合を算出しています。

続きまして、市民意識調査以外の指標についてです。

左側の表ヴィジョン 1 をご覧ください。

「次世代」で、次世代が参加するプロジェクト数については、市、プラットフォーム及び市民団体等による大学生以下の次世代が参加する年間のプロジェクト数になります。令和 5 年は 5 件で、具体的なプロジェクトは右側に次世代 5 件の内訳として記載したものです。

次に「交流」で、プラットフォームによる交流イベント回数については、東部まちづくりプラットフォームにおける登録者同士の交流回数になります。各トライアル活動の取組に加え、まちづくりセミナーや活動報告会、意見交流会など計 19 回であります。

ヴィジョン 2 に「農業・商工業」で、農業サポート制度登録数は JA が実施するモモサポー

ター制度の年間登録者数であり、現状値は 50 人であります。モモサポーター制度に続きぶどうサポーター制度が昨年度開始されましたので、今後集計していくこととします。

その下段「新規ビジネス」で、東部地域における起業・創業に対する補助件数です。商工振興課で実施する補助制度のうち東部地域に関係する申請の件数であり、現状値は 13 件、内訳は起業・会社設立支援補助金制度の申請が 4 件、創業支援利子補給補助金交付制度の申請が 9 件となっています。

続いてヴィジョン 3 です。

「地域資源」で、市ホームページの 東部まちづくりニュース の年間アクセス数は、東部地域の住民主体の取組など「東部地域の今」を伝える目的で随時更新しているホームページの閲覧数であり、現状値は 2,452 件です。投稿の内容によってアクセス数に差はございますが、1 投稿あたりの平均アクセス数は令和 4 年度は 117.6 アクセス、令和 5 年度は 122.6 アクセスとなっています。今後もきめ細かく情報発信をしていきたいと思えます。

次に「住まい」で、戸建住宅の空き家数です。

空家等実態調査の結果を基に算出し、現状値は 142 棟です。令和 2 年度からの増減の内訳としては滅失や売買、使用実態の確認等で空家数から減少となったものが計 39 件、逆に苦情等により新たに空家として把握し空家数に計上したものが 15 件で、合計数として 24 件の減少となっています。

小牧市空き家等対策計画では、今後増加すると予測される空き家の数を推計値よりも抑制することを目指していることから、東部振興構想においても同様に、空き家の発生抑制や利活用推進などを図り空き家の数を抑制することとし、目指す方向としては横ばいとしております。

以上、資料 2 の説明とさせていただきます。

次に資料 3 をご覧ください。

はじめに 1 の東部まちづくりプラットフォームの登録状況についてです。令和 4 年 6 月に開設しました東部まちづくりプラットフォームですが、今年度は登録促進の目的で登録項目の簡素化を行いました。個人は氏名・住所をそれぞれニックネーム・小学校区別居住地に変更すると共に性別・電話番号の登録を不用としました。事業所は代表者名・住所をそれぞれニックネーム・小学校区別所在地に変更すると共に電話番号の登録を不用とし、登録のハードルを下げ登録者数の増加に努めています。

令和 6 年 9 月末現在登録者数は 121 名であります。

その内訳は、個人の方が 108 名、事業者・団体が 13 団体の登録をいただいています。個人の方の年齢層は 10・20 歳代の方が 10 名、30・40 歳代の方が 33 名、50・60 歳代の方が 48 名、70 歳代以上の方が 17 名であります。割合としては 60 歳代の方の割合が多くなっていますが、昨年度から今年の登録者数の推移としては 20 歳代から 40 歳代の若い年代の方も増えており、今回のワークショップに参加いただいた方を中心に登録をしていただいたことが要因となっています。

居住地別では東部地域内の住民が 80 名、それ以外の市民が 13 名、市外在住者が 15 名となっており、今年度は地域住民と地域住民以外の方が同じ程度増えています。

また事業所・団体としては東部地域内が4件、市内の地域外が7団体、市外が2団体であり、東部地域以外の事業所・団体の方にも興味を持っています。

次に2の東部振興構想及び東部まちづくりプラットフォームの周知についてですが、資料2でお示ししました19回の交流イベントごとに東部まちづくりプラットフォーム、東部振興構想のチラシを配布し周知を行いました。

またワークショップへの参加者を募るために、ピアーレ桃花台で4月12日、19日の2日間時間帯を変えてチラシの配布および昨年度のトライアル活動の紹介を行いました。パネルにて興味のある活動にシールを張ってもらうなど立ち止まっていただけるよう工夫しました。

2ページをお願いします。

市民活動団体である「桃花台を考える会」と市との協働提案事業として、6月30日に「桃花台を考える講演会 みんなで考える桃花台の現在と未来」を開催しました。当日は150名の方にご参加いただき、当審議会委員であられる和田委員にご講演いただきました。また、第2部として現在整備中であるオアシス小牧の概要報告がなされました。

また7月27日、28日に開催した「桃花台まつり」にて、東部振興構想、東部まちづくりプラットフォームの啓発活動としてブースを設け、東部地域の特産物や公園の数などといった東部地域の現状や、現在実施しているトライアル活動などの問題を初級、中級、上級のレベルに分け東部地域クイズを実施し、多くの方に立ち寄っていただき、東部地域について学んでいただきました。その他うちわや啓発チラシの配布、ポスター掲示により周知活動を行いました。

10月7日から14日には、名古屋栄、森の地下街にあるまちのたねにて小牧市のPRイベントを実施し、8日から11日の4日間、昨年度の東部地域トライアル活動である「フードロス商品開発プロジェクト」にて産学官福連携を行ったパンベルと小牧ワイナリーが出展しました。8日、9日はパンベルさんがワインパミスを使用して開発したパン等を販売し、10日、11日は小牧ワイナリーさんがワインの試飲と販売をしました。販売に併せて東部振興構想や東部まちづくりプラットフォームなどのチラシや直近で行われるトライアル活動やまちづくりセミナーのチラシを配布、案内を行い市外の方にも東部のまちづくり活動を知っていただける機会となりました。

次に3の東部地域でのまちづくり活動の促進に向けた取組です。東部地域でつながり、やってみようプロジェクトとしてトライアル活動に向けたワークショップを4/28、5/12、5/26の3回実施し、約20名に参加いただき、新たな取組が3つ生まれました。活動の詳細につきましては、後程資料4にて説明させていただきます。

次に3ページをお願いします。

人材育成を目的としたまちづくりセミナーです。

今年度はまちづくり活動を始めようとしている方や、初めて間もない方に向けてセミナーを開催しており、9月28日のセミナーには12名の方にご参加いただきました。

講師には、大府市で放置竹林を整備し未利用資源の地域循環を目指す取組を実施している一般社団法人BUN-KAIの代表理事である箕浦氏をお招きし、はじめての地域活動のコツや活動を進めていく中での課題への対応方法について講義いただきました。その後、東部地域で

竹を活用したイベントであるバンブーインスタレーションの実行委員を務められている坪井氏をゲストにお招きし、パネルディスカッションを行いました。参加者の抱える疑問点や活動をしていくうえでの課題や問題解決の共有を行いました。セミナー最後には、参加者同士で会話されている様子が伺え、新たな交流も生まれました。

今後の予定としては、参加者の抱く想いをカタチにする方法を学ぶ目的で、小牧ワイナリーさんの協力を得て小牧ワイナリーの事業化への経緯や苦労話をお聞きし、また第2部として、手作り干し芋のプロデュース活動をされている管理栄養士の田中氏をお招きし、事業概要や現在までのステップをお聞きし、参加者の皆さんがトライアル活動や地域活動に活かしていただくことを予定しています。

その他、桃花台を考える講演会を令和7年1月19日に、東部地域トライアル活動実施報告会を令和7年1月26日に開催予定です。

最後に、今年6月に運用を開始した東部地域まちづくり活動パートナーシップ制度の登録状況についてご報告いたします。

現在の登録者数は1団体です。令和4年度からトライアル活動にてまちづくり活動をされていたこまき地産地ショープロジェクトです。今年度3年目の活動であり、市からの補助金交付がなくなったことから当制度に登録をされました。

制度の周知ですが、小牧市民活動ネットワークさんにご協力いただき事業者や東部地域の活動団体へ制度の周知を行っていただきました。また、市の各施設へ制度案内のチラシの設置をしております。今後も引き続きトライアル活動団体や東部地域の様々な活動団体に対し、当制度の周知に努めてまいります。

以上、資料3の説明とさせていただきます。

次に資料4をご覧ください。

東部地域トライアル活動等の状況についてであります。

まず、令和4年度から開始され令和6年度で3年目を迎える活動から紹介いたします。

「あおぞら市場 in 緑道」については、令和5年度は7月と11月の2回開催し、地元農家さんと家庭菜園者の方が出店し、多くの地域住民が来場され大きな賑わいとなりました。

令和6年度はすでに7月7日に1回目を開催し、第2回は11月24日に開催を予定しています。また、隣接する桃ヶ丘会館を新たに交流スペースとして開放するなど活動に工夫をされ、地域に親しまれる活動となっています。

次に「地産地消プラットフォーム」です。令和5年度は第3回地元の食材を使った料理会を開催しました。第1弾では32名、第2弾では40名、第3弾では47名の方にご参加いただきました。

令和6年度は8月24日に名古屋経済大学内にて夏野菜収穫体験を実施、9月29日には桃陵中学校調理室にて料理づくりイベントを開催しました。今年度市民活動団体の登録を行い、「こまき地産地ショープロジェクト」と名称が変更となりました。

次に「こどもマルシェ」です。12月に大城児童館と連携して開催、3月には下末地区で開催され、いずれも大変多くの来場者数となりました。令和6年度も昨年度と同様、大城児童館と下末地区にて開催を予定しています。

次に令和5年度にて終了した活動を紹介いたします。

3ページをお願いします。

「東部地域イメージアッププロジェクト～動画コンテストおよび大学祭での認知拡大ブース出店」です。

こちらは若年世代に東部地域を居住地として選択してもらえるよう、東部地域の露出度を上げる取組であり、令和4年度から活動していました。

令和5年度は大学生がモデルとなったフォトコンテストを開催し、特設サイトおよびポスターの作成を行いました。しかしながら主力メンバーであった大学生が卒業されたこともあり、令和6年度の継続事業には至りませんでした。

次に「フードロス商品開発プロジェクト」については、産官学福連携のフードロスを活用した商品を開発する取組です。令和5年度はワインパミスを活用したハードパンを地元のパン屋パンベルが開発し、名古屋経済大学の管理栄養学科の学生7名から10種類のメニューの提案を受け、3種類が採択されました。栄森の地下街のイベントスペース「cuca」でレシピの紹介を学生が行い、小牧ワイナリー主催のワインまつりにて採択された3種類の商品の販売を行いました。今年の7月からは小牧ワイナリーにてモーニングの時間帯に販売が開始されました。

大学生のレシピ開発にも限りがあることから令和6年度の継続事業には至りませんでした。が、学生の関わりを継続した取組「開発商品PRプロジェクト」が発足しました。詳しくは後程説明します。

次に令和5年度から開始され、令和6年度で2年目を迎える活動について紹介します。4ページをお願いします。

「Waibeeee マルシェ」については、桃花台線旧車両基地用地の未利用地部分においてキッチンカーやグルメ物販、ハンドメイドなどのブース出店によるマルシェを開催する取組です。令和5年度は11月25日、26日の2日間で開催しました。キッチンカー30台以上、グルメ物販等14店舗の出店があり、多くの人でにぎわいました。令和6年度は11月30日、12月1日に開催予定で、市外の出店者のみではなく地域とのつながりを意識し、地元の出店者も募るよう工夫をされています。

次に「東部地域イメージアッププロジェクト～学生の郷土愛を醸成するための産学連携支援～」です。地元ケーブルテレビ局であるCCNet株式会社と連携し、メディアリテラシー向上に向けた講義を通して地元中学生の郷土愛の醸成を目指した取組です。インタビューの仕方などを含む映像作成方法の講義では、実際に東部地域で地域活動に取り組まれている方々にインタビューを行うとともに、外部への発信方法を学びました。

次に今年度から新たに開始された、または開始される予定の取組を紹介します。5ページをお願いします。

「夏休み親子自然塾 IN 桃花台」は、地域の自然を学ぶことで地域への理解と愛着を深めること、また親子で参加することで子育て世代間の交流が増えコミュニティが強化され、外部からの若い世代の流入を促進することを目的に、市民四季の森を散策し、森林浴しながら昆虫、植物の観測を行う自然観測会を実施するもので、7月27日に観測会を実施し3組の親子

に参加いただきました。

次に「終活講座」です。こちらは、東部地域の高齢化率の高さから空き家が増加する可能性が非常に高い課題に着目し、生前に自身の財産について考え整理する終活講座を開催するものです。

実施主体が民間事業者であります。東部地域の課題解決につながる取組であるため活動費の補助を行うことはいたしません。施設利用や開催周知などの支援を実施するものです。

次のページに移りまして「開発商品 PR プロジェクト」です。

昨年度実施したフードロス商品開発プロジェクトと同じく産官学福の連携による取組ですが、今年度はパンベルさんが考案・販売するレシピに対し、名古屋経済大学の学生が若者の視点より商品周知のためのロゴやPOP づくりを行い、時にはメニューへの意見交換を行います。ロゴ、POP づくりのために、学生は小牧ワイナリーやパンベルへ作業見学や商品開発への想いをインタビューします。最終的には2月にパンベルのカフェで販売するところまでを目標としています。

ここからは今年度のワークショップにて新たに生まれた取組です。

「絶滅危惧種マメナシを多くの人に知って頂くプロジェクト」については、マメナシを通して東部地域の魅力を発見、発信していただく目的で、マメナシを中心としたイベントを開催される予定です。3月28日に太良まめなしの里にてマメナシ観察会と尾張白山フォトラリーを開催予定です。

次に7ページをお願いします。

「桃・ぶどうを活用した無添加レシピを作ろう」です。

この取組は東部地域の資源である桃、ぶどうを活用して無添加商品のレシピを作成し、新たな魅力を創出し販売することで、東部地域を宣伝し、地域の農業発展につながることを目指した取組です。

試作を重ね10月13日に名古屋経済大学学園祭にてジッパードリンク113杯とジャム33個を販売し、東部地域の特産物のPRにつなげました。

次に「リユースバスケット」です。こちらは空き家等を活用し、地域で集まりやすい場所をつくることで若い世代、子育て世代同士、多世代交流を生み、だれでも受け入れられる場所を作りたいという想いから生まれました。

先週、10月14日に本番に向けたメンバーだけでのプレイベントを開催したところで、今後、11月から12月にかけて資料に記載のあるように活動実施にむけて準備を進めています。

次のページに移ります。

最後にトライアル活動ではございませんが、その他としまして「地域こども食堂」です。令和5年度にオープンした地域こども食堂が、令和6年9月に1周年を迎えられておりますが、毎月、地域の子供から高齢者まで多様な世代が集まり、また運営には地元の事業所や飲食店の協力を得られており、地域の連携、協力のもと活動が継続されています。

トライアル活動についての説明は以上です。

次ページ以降に各トライアル活動と東部振興構想との関連性をまとめた表を参考資料とし

て付けておりますのでご参照ください。

以上で議題1 東部まちづくりの進捗状況についての説明を終わります。よろしくお願いいたします。

【会長】

どうもありがとうございました。資料2、3、4を使って進捗状況のご報告をいただきました。何かお気づきの点或いはご質問等ございますでしょうか。

かなり活発に交流活動が動いてるというような様子がよくわかるかと思いますが、何か少しこういう工夫をしたらとか、そういったアイデアでも結構ですのでいかがでしょうか。

【小柳委員】

今会長がおっしゃったように随分活動が活発になってるように思います。

私もすべての活動には参加しておりませんが、講演会やまちづくりセミナーについては、できるだけ参加をさせていただいております。その中で講師の方は経験や知識から、地元の人たちがどうトライして活動を作り上げていくかということが重要であるとおっしゃる。従って、私ども地域の人間としてはトライを繰り返しながら、次の活動に結びつけていくことが大切ではないかと思います。

先日の放置竹林のセミナーは若い講師の方で、若い参加者もあり非常にいい内容でしたが、当日の参加人数が少なく残念でした。私は若い人たちから非常に力をいただきましたが、やはり参加者をもう少し増やす努力が必要だと思いました。

もう1つ、私どもが取り組んでいるあおぞら市場も3年目に入り、11月24日に開催する市場もすでに準備に取りかかっていますが、そこに集まる人たちに更に喜んでいただけるようステップアップしていかなければならないと思っています。特に地元では外国籍の子どもたちがたくさんいますので、中学の生徒さんにボランティアで参加していただくことも考えています。学校行事でなかなか参加できないのが悩ましいところですが、そういった努力を重ねながら、更に中身を濃く、幅を広げ、奥行きを持った活動にしていきたいと思っています。

【会長】

ありがとうございます。他はいかがでしょう。

【宮脇委員】

まめなしの関連で私が実施してるトライアル活動の開催日についてですが、上の工業団地の企業の方からお手伝いや指導いただく関係で、企業の方は土曜日の都合が悪いということで、日曜日がいいなと思い設定しました。また、春休みであるため子どもも十分ご参加いただけたと思います。当日参加の小学生にはバッジを差し上げますのでぜひ盛り上げていただきたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。他いかがでしょう。リモートで参加していただけてる和田委員何かございますでしょうか。

【和田委員】

ちょっと話がそれるかもしれないのですが、今年の桃花台のおまつりは全体でどれぐらい来られたのでしょうか。

【会長】

いかがでしょう。この回答は事務局になりますか。

【和田委員】

ざっくりでいいです。

【深堀委員】

桃花台まつりですが2日間に分けて行い、初日が約2万5000人です。2日目は1万5000人以上、2万弱というところですよ。

【和田委員】

ありがとうございます。この参加者数をみると本当に桃花台がまだまだ可能性があるのではないかと非常に思います。

元々地域の方でその日に帰省してみえる方も桃花台まつりに参加していると思いますが、こういう機会に実家やIターン、Uターン等について考えるといいと思うのですが、参加者層について分かることがあれば教えてください。

【深堀委員】

桃花台まつりですが従来は幅広い年齢の方の参加が多かったのですが、去年、一昨年、今年を見ていると若い人の参加が約8割、逆に高齢者は2割弱という非常に世代が若くなっていることが1つの特徴になっています。

これだけの人数が集まるイベントというのは小牧市でも結構大きいイベントになるのではないかとということで、まつりの実行委員会としては桃花台まつりを小牧市民まつり同等な扱いで、東部地域のまつりとして市に関わってもらえないかという動きをとりつつあります。

以上です。

【会長】

ありがとうございます。

【和田委員】

桃花台の人がこれだけ集まる機会を捉えて、男女比やどちらから来たか、桃花台に元々住んでいる、住んでいないといった事前に桃花台まつりに申し込む際に、例えばQRコードから申し込んでいただくと割引500円つくといった方法でアンケートを行い、データを取っていただくと面白いのではないかと思います。そういう場合、個人情報の扱いもありますが、元々桃花台にいらっしゃってUターンの可能性がある方たちに情報発信をして、桃花台にもう一回帰ってきたいと思ってもらえるような、動線みたいなものができたら面白いなと思います。

やはりこの3万人集まるというのは様々な課題を見つけ、次のステップに繋げていくところには大きく寄与できるのではないかと思いますので、運営側は大変かもしれないですが一つ検討いただければと思います。

【会長】

ありがとうございます。紙媒体等いろんな形でやると集計等が大変なので、先ほど比較的皆さん若い世代が非常に多いとお聞きしましたので、ネットアンケートにすれば後の集計も簡単なのでそういったことを考えていただければいいんじゃないかなと思います。私の方か

ら2、3点お聞きします。

今までの話を踏まえて1つは小柳さんからまちづくりセミナーの話がありましたが、最初はスタートアップセミナーでいいと思いますが、どこかでステップアップセミナーのようなことも考えられて、既にされている活動の事例報告であるとか、今までの活動をより展開するためのセミナーをしていくというのも1つかと思います。

もう1つは、やはりあおぞら市場の集まりが悪い場合とか、活動間の連携をやっていただいて、あおぞら市場をやってる同じ日に或いは近くで子ども食堂やっていると、子ども食堂に来られた方があおぞら市場に行けるとか、あおぞら市場にこられた方が子ども食堂に行けるような、せつかくプラットフォームでいろんなことやっておりますので、イベント間の連携をしたり協力関係を取れると次のステップアップが図れるのではないかなと思いますので、積極的にせつかくこのトライアル活動をされていますので、そういったマッチアップもトライしていただけるとありがたいなと思います。

もう1つは今年から企業或いは団体へのマッチアップの事業が動いて、今登録は1つというのですが、このトライアル活動の中でも何点か産官学福とかいう形で、産業と結びついてる活動はもう既にあります。こういうのは多分、産業が参加するときの一つの形態ではないかということで積極的にアピールいただいたらいいのではないかと思います。このCCNetと連携して取組されてる方も情報産業が活動をバックアップしていただけてるとか、或いは新商品のフードロスのところでの商品開発のプロジェクトに対して、福としての小牧ワイナリー、産としてのワインパミス、ワイン。そしてパン屋さん。ワインパミスを開発されたところと企業と活動がマッチアップすることによって、ある一定の商品化ができるようなことを積極的に企業に働きかけていただけたら面白いのではないかと思います。

あとはいかがでしょう。これカウントの仕方は結構難しいですね。5年6年でそこからスピニングアウトをやった活動を新しい活動として見るのか、継続としてみるのかという点。ただ、いろんな意味で5年後6年後と継続してる活動からスピニングアウトしていろんな活動が生み出されているというのが非常に良い傾向なので、大いにスピニングアウトすることを支援できるような形で展開していくと、先ほど小柳さんから、やはり地元の方々が第一歩をどう踏み出すのかっていうのが1つのキーになってくると発言されていましたが、スピニングアウトというのも1つのキーになろうかと思しますので、そのあたりをうまく誘発をすることも大事かと思います。

後こういった活動をプラットフォームやホームページ等で発信していただいているんですが、この頃の若い人達はホームページよりもむしろSNSでの情報発信というのがよりつきやすくなっています。インスタグラムやラインの友達登録といった新しいツールで活動の報告をしてくれてるというトライアル活動はありますか。

私の泉ヶ丘公園でやってる活動は、すべて出展者の方々がみずからインスタグラムでどんどん発信いただいてそれを情報発信として使うようなやり方をやっているのですが、その方が若い人たちよりつきやすいというので、そういうことも1つの方法だと思うんですが何か事務局ご回答あるでしょうか。

【東部まちづくり推進室長】

今ご紹介したトライアル活動の中では、Waibeeee マルシェさんは SNS を活用してInstagram にて PR 活動されておりますし、地産地消プラットフォームの方はホームページも立ち上げており、あわせて Facebook 等を活用して PR いただいている状況です。

【会長】

わかりました。

ファンドレイジングみたいな形で活動資金をどう獲得しようかというセミナーも 1 つですし、情報発信の仕方として、プロダクトデザイン等をしてる方々のチラシの作り方や Instagram の作り方など、そういう講習会も 1 つかもしれません。

ちょっとプロの目が入るとおっと驚くような情報発信の形に変わりますので、そんなセミナーを考えていったり既発表の事例紹介など、そういうことがあってもいいかなと思います。他はいかがでしょう。

【小柳委員】

9 月 28 日に開催された荒れた竹林を再生させていこうというまちづくりセミナーに参加しましたが、東部地区も放置竹林が多いと思います。先日、中学校の体育祭があったのですが、生徒はどこからか提供された竹の長い棒を自分たちで綺麗にして、お互いにとりあう競技をやっていました。また、私たちも参加します小学校ピーチフェスタというイベントでは、自分たちで竹細工や竹で花瓶を作ったりする活動もあります。既にある愛林会との関係も含めて考える必要がありますが、これらの活動は竹林の再生へのチャンスでもあり、そういう活動を結びつけていくということが東部地域でも竹林を整備、整理していくという活動に繋がっていくのかと思います。

【会長】

孟宗竹の拡大というのは年間外縁部に対して 3 メーターずつぐらい拡大していくので、あっという間に尾根に上ってしまう。

これは景観的にも生物多様性的にも防災上にも非常にまずい状態が発生するということですので、全国的にやはり放置竹林の抑制というのは非常に大きな課題なのですが、今小柳さんがおっしゃったように、私のやっていると、やはり刈り取った竹をどう利用するかということですが一番量のはけるのが竹炭です。炭化炉で竹炭を作ってそれを流通させると、或いはバイオマス発電の材料として提供するとかいう、バイオマスとして扱うのが一番量をはける。やはりクラフトだけでは量はあまりはけないですから、切り取って切り出してきた竹がどれぐらいはけるのかということも非常に活動を継続していくためには重要になると思いますので、その辺も考えていただいたらいいのかなと思います。ひょっとしたら放置竹林の抑制は、今動いてる森林環境税の対象に森林の保全というような形でなるかもしれません。そういったことも考えていただければということです。他はいかがでしょう。

【田中委員】

1 点だけ先ほど企業との連携と説明があったところですが、実は社会福祉協議会の方で、お隣の商工会議所さんに先日のご協力いただいたのですが、企業とのパートナーシップ制度というものを作りまして「企業様の方からこんなことなら協力できるよ」や「まちづくりにこんなことの力が提供できるよ」というようなことを、今情報収集してる段階です。なにがし

かの協力関係を結びながらこのまちづくりに生かしていくというようなことを今しています。今後トライアル活動やいろんな活動の部分で、少し情報を知っておいていただきお声掛けいただければ何がしかお役に立てるかなと思います。

【会長】

非常にありがたい情報提供で、ここでも企業活動と市民活動をマッチアップしようという連携があるでしょうから、情報をきっちりと共有していただくというのは非常に大事だと思います。ありがとうございます。

【深堀委員】

もったいないなという活動の部分があるのですが、名古屋経済大学の学生は2テーマ関わっています。1つはパンで、もう1つはジャム。これをPRするのを独自で行うような形態になっている。パンとジャムであれば、結構相性としていいのではないかなと思うのでここをタイアップして動くともっと宣伝効果があるのではないかなと思います。

【会長】

はいわかりました。

いずれにしてもこのトライアル活動間の情報共有や連携のあり方をうまく事務局の方でリードアップしていただいて、結びつけていくとより発展性があると思いますので、大いにトライしていただければと思います。

【東部まちづくり推進室長】

はい。今ご意見をいろいろいただきましたが、会長、深堀委員や小柳委員、他の皆様からもありましたが、本当に活動同士の横の連携をしていくというのは、東部振興構想でも繋がりを持って発展していくということで、トライアル活動1つにしましても、ワークショップにて既存の取り組み同士の新しいかけ合いや、そういったことも含めて非常に皆さん話し合いをしております。そういった連携ができて、よりステップアップできるような取り組みに発展していくようにこれからも事務局として活動を頑張っていきたいと思っております。

【会長】

ありがとうございます。

あともう1点、このプラットフォームの登録者数結構増えてきましたが、ここに対しては何か定期的な情報は提供されてるのでしょうか。プラットフォームの121名に対して。

【東部まちづくり推進室長】

プラットフォームのオンラインのツールとしてLINEを活用していますが、こちらに関しては情報発信ということでトライアル活動のイベントや、パートナーシップ制度が新しく動き出すなど、逐一東部まちづくりの動きを発信させていただいています。

【会長】

わかりました。ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。大塚委員何かございますか。

【大塚委員】

繰り返しになりますが、皆さんが今お話いただいたように私の率直な感想としては、今回のトライアル活動に結構新しいものがどんどん出てきておりすごいなと思いました。このト

ライアル活動を始める前に、もともとそういった活動がこの東部地域にたくさんあったのだと思います。

そういうものもこういうところに出てきていただいて、情報を共有して繋げていき、そこからまた新しい動きに繋げていくことが一番重要で、そのために具体的にどういう方法でというところを考えていかないといけないなと思っています。

【会長】

ありがとうございます。

多分やはりある意味、ニュータウンの持っている特性というそういった人的資源のポテンシャルが非常に高いということがございますので、そのあたりどう顕在化させていくかという、まさに今それをどう発掘したり育てていくかみたいな視点が非常に重要ですよということのご指摘かと思います。ありがとうございます。

それでは今日第1議題が、進捗状況という形でございましたが、今年もトライアル活動の発表会があるということですので今年の成果として楽しみにしております。

ありがとうございました。

それでは報告案件がその他含めて4件ございますので、報告案件に入っていきたいと思えます。

第1報告として小牧市都市計画マスタープラン、特に地域別構想の東部地域についてご報告をよろしくをお願いします。

【都市計画課長】

それでは、私の方から報告事項の(1)小牧市都市計画マスタープラン改定における東部地域の構想について説明をさせていただきます。

第12回の審議会でも説明させていただきましたが、本市では昨年度から今年度にかけて、都市計画に関する基本的な方針である都市計画マスタープランの改定を進めております。

今回の改定では、市街化調整区域における産業候補地区の見直しと、東部地域の地域別構想のうち特に桃花台地区における用途地域や地区計画といった都市計画の見直しを主な内容としているため、東部地域の土地利用方針について、第10回、第12回の審議会において報告させていただきました。

本日は本審議会や都市計画マスタープラン及び立地適正化計画改定委員会での意見を踏まえて作成しました、計画のパブリックコメント(案)についてご報告させていただきます。

前回の審議会でも現況や概略等をご説明しておりますので、前回から変更した箇所について説明させていただきます。

資料5、都市計画マスタープラン(案)の136ページ、PDFデータでは142ページをお願いします。今私、パブリックコメント(案)と申しましたが、来月11月から、計画案につきましては、パブリックコメントの実施を予定しているので、都市計画マスタープランのパブリックコメント(案)として、報告をさせていただきます。

このページから、地域別構想のうち、東部地域のまちづくり構想について記載をしております。資料144、PDFデータでは150ページをお願いします。

地域の主要課題の③、「新たな産業用地の形成及び既存工業地の維持」において、産業候

補ゾーンについての記載がありますが、工業についてしか触れられていないという意見がございましたので、まちづくり目標では、課題③に対応する形で、「新たな工業系市街地や地域振興に資する新たな市街地形成を目指す」と整理しているため、課題にも地域振興について追記しております。

また、地域の主要課題の④「高齢者をはじめ誰もが快適に移動できる交通環境の維持・改善」において、近隣市町へのアクセスに関しては、記載されているが、域内移動については触れられていないという意見がございましたので、後半に高齢者を中心に自家用車に依存しなくても日常生活を維持できる、新たな交通サービスの導入検討を追記しております。

続きまして、資料の 147 ページ、PDF データでは 153 ページをお願いします。

地域のまちづくりの方針のうち、上から 2 つ目の丸、桃花台線旧車両基地用地の利活用について、検討を行う際に市民アンケート等を行ってきたことから、「地域住民ニーズ等を踏まえて」という言葉を追記させていただいております。

主な変更点については以上となります。

続きまして資料 6「都市計画マスタープラン概要版(案)」をお願いいたします。

パブリックコメント実施の際に、参考として概要版につきましてもパブリックコメントの際に公表を予定しております。

現行の都市計画マスタープランの概要版から、今回の改定で新たに追加された項目や、修正された箇所についてご説明いたします。

具体的な項目としましては、3 ページの土地利用方針図に、物流を除いた産業候補地区を追加したこと、また、4 ページの地域別構想の東部地域の部分に、今回の改定内容の概要を右下のとおり追記しております。

以上で、小牧市都市計画マスタープランについての説明を終わります。

ただいまご説明いたしました計画案につきましては、先ほど申しましたが、11 月にパブリックコメントの実施を予定しております。

また参考であります、都市計画課では、都市計画マスタープランとあわせ、人口減少社会に対応したコンパクトシティを実現するための計画である「立地適正化計画」、また、良好な景観形成を図るための方針を示す法律に基づいた「景観計画」及び「景観条例」についても同時期にパブリックコメントを実施する予定ですので、あわせてご報告させていただきます。

以上簡単ではございますが、都市計画マスタープランについての説明とさせていただきます。

【会長】

ありがとうございました。

前回ここで議論をしたことを反映いただいて、都市計画マスタープランができ上がっているという点と、概要版も付記しながら 11 月からパブリックコメントが開始されますので、何かお気づきの点あったらパブリックコメントにぜひ意見を寄せていただければということだと思います。

【小柳委員】

ただいまのマスタープランの説明の中で私が関心を持つのは、桃花台線の旧車両基地の関係についてです。

この空き地部分の活用については、地元住民も非常に関心を持っております。私どもも廃止をされるということが分かった当時、実はこのメンバーでもある落合委員と私が桃花台の代表をしていましたので、この利活用について平成 23 年 6 月 16 日に市へ要望書を提出しました。それからロータリーや駐輪場を作っていただいたり、いろいろ整備していただきましたが、残された部分について、現在、利活用推進会議で検討しているような状況をお聞かせいただければと思います。

【会長】

いかがでしょうか。

先ほど少し 147 ページのまちづくりの方針の中で、地域ニーズ等を踏まえて決定した整備方針に基づき、必要に応じて用途地域の変更地区計画の決定等を検討という形で記載されておりますが、具体的に何か動きというのがあるかどうかということですが、事務局いかがでしょうか。

【東部まちづくり推進室長】

お尋ねいただきました桃花台線旧車両基地用地の利活用ということであの土地が、ご承知の方もいらっしゃるかとは思いますが、愛知県と小牧市の共有の財産ということで、県と市の関係部署で構成する桃花台線旧車両基地用地利活用推進会議において、今後の利活用方策を検討しています。

現在の検討状況については、まだ調整中ではございますが、地元からの今お話があった要望事項や昨年度アンケート調査を行っておりますので、そういったところで把握をいたしました地域住民の方のニーズを踏まえた上で、民間活力を導入した施設整備の事業性の確認をするために、民間業者の方から聞き取りをするサウンディング型市場調査というものを今年度中にまずはやっていけるようにということで、愛知県と小牧市で調整をしているところです。

【小柳委員】

私たちが平成 23 年 6 月に要望書を提出してから随分時間が経ちましたので、やはり時代は変わりますし、年齢構成も変化しています。人口減もあります。そういう面でいろいろ大変だろうと思いますが、東部まちづくりにふさわしいものを考えていただければありがたいと思います。

【会長】

わかりました。

できましたら今年度中にサウンディング型の市場調査をされるということですので、調査結果が分かればこの会議にご報告をいただいて、皆さんに情報共有できたらと思います。他はいかがでしょうよろしいでしょうか。

【西尾委員】

前回は質問させていただきましたが、名古屋造形大学の敷地がどうなるかとか、スマートインターといったあの辺のことについて、今地図を見ると同じような位置付けと読めます。

造形大学は固有名詞が入っていますが、これについてその後どうなりましたか。

【会長】

いかがでしょうか。

土地利用図の中には依然として、名古屋造形大学というのがマークされておりますが、それともう1つはスマートインターの近辺が土地利用図の中ではほとんど色としては出てきていませんが、何か状況がおわかりでしたらご報告いただければと思います。

【都市計画課長】

まず大学用地の関係ですが、こちらは引き続き大学用地として活用していくということで聞いておりますので、報告をさせていただきます。

【会長】

学舎はなくなって、まだ大学用地としては依然として継続されるという今の状況が確認されているということですね。

【都市計画課長】

はい。

【会長】

もう一つはスマートインターの方はどうでしょうか。

【東部まちづくり推進室長】

スマートインターを含むハイウェイオアシスということで、民間事業として整備を進めておられるのですが、公共性の高い施設になりますので、東部地域のまちづくりの重要な施設であると認識をしております。

この辺りの今の状況というところで、開業時期であります、先ほど議題で説明しました今年6月30日「桃花台を考える講演会」の中で、事業主体である株式会社オアシス小牧から概要報告がなされまして、令和7年、来年の秋頃の開業を予定されているということはお伺いしております。ただ、現在の詳細な状況ということになりますと我々東部まちづくり推進室では把握はいたしておりませんのでよろしくお願いします。

【会長】

ありがとうございました。

【坪井委員】

今のオアシス小牧に関して、小牧商工会議所が絡んでいるものですから説明させていただきます。今おっしゃったように来年の秋に、いわゆるスマートインターの部分、サービスエリアの部分を開業するということです。住民の皆様方が非常にご心配なされたというのは3月～4月頃から3ヶ月間ぐらい工事がストップしていたため心配をされたかと思います。現状はもう工事も再開をしております。

建物が建つとかそういう目立った仕事はよく目につくのですが、工事エリアに産業廃棄物が入ってるものですから、それを動かしたりなど上から見ればわかる工事、下からはなかなか見えないのでご心配をかけております。工事は今再開をしておりますので、来年の秋に開業、それからサービスエリアの北側に、パークエリアといっているスポーツ施設のようなものを作る予定をしています。

同時オープンということ言っていたのですが、資金繰りという関係で来年の秋にサービスエリアが開業した後から多分1年ぐらいかかると思いますが、そちらを開業する予定ということになっております。以上でございます。

【会長】

サービスエリアは通常のサービスエリアと同じような商業展開をするという理解をしてよろしいですか。

【坪井委員】

通常サービスエリアでの飲食やお手洗いなどそういうものもでございます。また、地元の物産等も販売をするということです。今のところ900人ぐらいの新規の雇用を考えてるということでございます。

来年早々には、サービスエリアの部分に出店されるお店などが決まってくるということでございます。

【会長】

わかりました。西尾委員よろしいでしょうか。

【西尾委員】

はい。ありがとうございます。

【会長】

他はいかがでしょう。都市マスに関してはよろしいでしょうか。

【審議会委員全員】

はい。

【会長】

ありがとうございました。

続きまして、公共交通計画についてというご報告でございます。よろしくお願ひしたいと思ひます。

【都市整備課長】

都市整備課長の川島です。よろしくお願ひいたします。

都市整備課からは、現在策定を進めております小牧市地域公共交通計画についてご説明させていただきます。

資料7「小牧市地域公共交通計画(案)」をご覧ください。

本計画の策定に関しましては、前回の当審議会におきまして「小牧市における公共交通の課題整備」、「小牧市の地域公共交通が目指す姿」、「目標及び目標を達成するために実施する施策(案)の設定」などについてご説明をさせていただきました。

前回の報告後から、「小牧市地域公共交通会議」において協議した内容を、本日常審議会にてご報告させていただくものであります。

小牧市地域公共交通計画(案)の構成といたしましては、1章は「計画策定の趣旨及び位置付け」を、2章は「小牧市の地域特性」を、4章は本市を運行している鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシーなどの「地域公共交通の現状」、6章は「小牧市における地域公共交通の課題整理」を記載しております。

また7章は、小牧市の地域公共交通が目指す姿、基本的な方針と目指す姿を実現するために設定した6つの計画の目標を記載しております。8章は、計画の目標を達成するために行う事業を目標ごとに記載しております。9章は計画の達成状況の評価方法を記載しております。

続いて資料8をご覧ください。

資料7としまして取りまとめた計画(案)のうち、1章、7章、8章、9章を抽出し、パブリックコメント用に概要版として整理したのになります。この概要版につきましては、パブリックコメントの参考資料として取り扱う予定としております。

最後に、計画策定に係る今後のスケジュールについてご説明させていただきます。

本計画については本年11月上旬から1ヶ月間、計画案についてのパブリックコメントの実施を予定しており、令和7年2月ごろに策定したいと考えております。

また本計画の策定とあわせまして、現在、令和8年4月の再編運行を目標に、こまき巡回バス「こまくる」の再編検討に取り組んでいます。「こまくる」の再編内容についても、本計画案と同時期にパブリックコメントの実施を予定しております。

以上で報告(2)「小牧市地域公共交通計画について」の説明とさせていただきます。

【会長】

地域公共交通、またこれも11月からパブコメがあるということで、そのスケジュールをご報告いただきましたが何かご質問ございますでしょうか。

【小柳委員】

小牧市地域公共交通計画については、市内外の移動がスムーズにでき、経済が発展し、魅力ある活発な未来像について書かれております。東部に限らず小牧市全体のことで申し上げますと、名鉄小牧線も立派に整備されております。小牧から春日井駅、勝川駅につながるバス路線、また桃花台から春日井駅、高蔵寺駅までバス路線があります。

小牧の東西線の交通網が整備されている部分はあるのですが、例えば味岡駅などから移動性に結びつくような交通がもう少しあると、市の全体のバランスがいいなと思います。今後の考え方としては、この整備された田県神社前駅、味岡駅から、名鉄犬山線につながるような何かの工夫ができないものかと思います。

間内駅から岩倉駅へつながるバス路線は、公的資金を投じているバスが入っているわけです。問題のある路線として今後発展させていかなければならないという責務があると思いますが、民間の協力的な送迎のバスも走っているようですので、そういうものをうまく利用し、協力を得ながらやっていくような方法を見つけ出していきたいと思います。

【会長】

直接東部地域には、関係しないということで、要望として扱うという事でよろしいでしょうか。事務局何かご回答ありますか。要望を聞きおくということでよろしいですか。

【都市整備課長】

名鉄小牧線と名鉄犬山線を結ぶ民間路線バスにつきましては、名鉄バス株式会社が運行している岩倉線が名鉄小牧駅と名鉄岩倉駅を、また、間内・岩倉線が名鉄間内駅と名鉄岩倉線を結んで運行しているところであります。

計画書で申しますと、計画案の50ページにお示ししておりますが、広域的な移動需要への

対応につきましては、民間交通事業者が主体となって利用実態や利用ニーズを踏まえ、需要に応じたサービス水準を確保するものと考えているところであります。

なお、北西部地区における民間路線バスの新規路線の整備の可能性につきましては、これまで機会をとらえて民間交通事業者にご相談してきたところでありますが、引き続き機会をとらえて相談していきたいと考えております。以上であります。

【会長】

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

【西尾委員】

ピーチライナーの高架橋や様々なものが撤去されると同時に高架下の 155 号線の歩道とか整備しておりますが、なくなった後、例えばバスレーンなどといったその辺の活用に、この公共交通がどう活かされるのかということが知りたいです。

【会長】

いかがでしょうか。

【都市整備課長】

現在、愛知県において桃花台線ピーチライナーの撤去工事が進められているところであります。

今ご意見ありました国道 155 号につきましては、上末地区と東田中地区で撤去工事が進められています。撤去後につきましては、上末交差点、東田中交差点において、渋滞緩和のための交差点改良工事が予定されています。今後もその工事の進捗を見守っていきたいと考えております。以上であります。

【会長】

よろしいでしょうか。特にバス路線的なところに振り替えるというようなことまでは考えられてないという理解でよろしいでしょうか。

【都市整備課長】

はい。

【会長】

ありがとうございます。よろしいでしょうかね。

【西尾委員】

はい。

【会長】

これもパブコメがあるということでございますので、意見のある場合にはパブコメでご回答いただき意見を寄せていただくということで、よろしくお願いしたいと思います。

もう 1 点、報告事項がございまして交通計画の中でも新しい技術の活用により、便利で快適に生活できることができる未来ということが謳われていますけれど、それに関連すると思われる自動運転実証調査事業についてご報告をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【都市整備課長】

それでは自動運転実証調査事業についてご説明させていただきます。

資料 9 をご覧ください。自動運転実証調査事業の実施概要についてであります。

前回の審議会に引き続きまして、「令和 6 年度自動運転実証調査事業の実施概要」についてご説明させていただきます。

まず今年度の事業者についてであります。本実証調査の実施にあたっては、改めて業務委託受注者を選定するため、本年 6 月から 8 月にかけて公募型プロポーザルを実施し、参加表明書等の提出があった 2 社について審査を行った結果、昨年度に引き続き、BOLDLY 株式会社を事業者として決定いたしました。

次に運行概要についてであります。

まず、運行ルートにつきましては、前回の会議にて、プロポーザル実施内容の標準ルートとしてお示しさせていただきましたが、桃花台ニュータウンにおいて、桃花台センターを起終点として外縁を周遊するルートといたしました。

資料に記載のある赤色の路線を「桃花台西回りルート」、青色の路線を「桃花台東回りルート」としており、車両 1 台でそれぞれのルートを交互に運行する予定としております。

次に乗降場についてであります。昨年度に引き続き、自動運転車両への一般の方々の乗車を予定していることから、乗降場を設置したいと考えております。乗降場の設置箇所につきましては、こまき巡回バス「こまくる」や民間路線バスのバス停が設置された箇所を予定しておりますが、具体的な設置箇所につきましては、今後関係機関と調整の上、固めて参りたいと考えております。

次に運行時間についてであります。全日 9 時から 16 時までを予定しております。運行時間のうち、12 時から 13 時までの時間帯につきましては、自動運転車両の調整等の時間としたと考えております。

次に運行本数についてであります。桃花台西回りルートと桃花台東回りルートを 1 日当たり各 6 便で運行したいと考えております。運行にかかる時間としましては、桃花台西回りルートが 25 分程度。桃花台東回りルートが 25 分程度の合計約 50 分程度を想定しておりますが、具体的なダイヤにつきましては、今後、関係機関と調整の上、固めて参りたいと考えております。

次に運行車両についてであります。ミニバスと呼ばれるバス型の電気自動車を使用いたします。車両の規格としましては、資料記載のとおりであります。現在、こまき巡回バス「こまくる」で使用しておりますロングポンチョと同程度となっております。

自動運転時の最高速度は時速 35km で走行が可能となっており、手動介入時においては、運行ルート内の制限速度に近い速度での走行が可能となっております。

乗車定員は 14 名程度を予定しており、運転士と補助員が各 1 名乗車する予定であります。

次に自動運転レベルについてであります。昨年度と同様に自動運転レベル 2 で実施したいと考えております。

次に検証内容についてであります。今年度、2 つの検証内容を設けております。

まず、1 つ目は社会受容性に関する検証です。

自動運転移動サービスをより多くの方に利用していただくために、車両へのラッピングや市広報紙、市公式 SNS 等を活用した広報、運行ルート周辺をはじめとした関係機関への説明

運行ルート上への看板の設置等を行い、自動運転に対する認知拡大を図りたいと考えております。

また、自動運転車両に乗車された方を対象としたアンケート調査の実施や、運行ルート周辺の地域住民や学校などと連携して、自動運転に関する理解の促進を図りたいと考えております。

検証内容の2つ目は自動運転環境に関する検証となります。

レベル4自動運転移動サービスの実現に向けて、自動運転車両の安全性や技術面、道路や信号等のインフラ整備周囲の自動車交通に与える影響などの走行環境について調査したいと考えております。

また今回の実証調査では、昨年度と同様に遠隔監視システムや乗車予約システムの活用を予定しており、これらの自動運転移動サービスに必要な要素についても調査したいと考えております。

最後に今後のスケジュールについてのご説明となります。

まず11月頃を目途に関係機関と協議を行い、事業の内容を固めていきたいと考えております。

その後12月ごろから関係機関や住民への周知を行い、令和7年1月13日から1月24日にかけて、実際に行動で車両を走行しながら運行の準備を進めていきたいと考えております。

本番に向けた準備がある程度整った段階で、出発式と関係者試乗会を実施していきたいと考えております。

そして、本番走行を1月25日から2月14日までの21日間実施したいと考えております。以上で報告(3)「自動運転実証調査事業について」の説明とさせていただきます。

【会長】

ありがとうございます。

自動運転の実証調査事業についてご説明ございましたが、何か質問ございますか。

【深堀委員】

気になる点として、実証調査期間の1月と2月は桃花台の道路というのは街路樹がすごく密に植えてありますが、この時期葉っぱは全部落ちています。そうすると、その街路樹の葉っぱがある時期とない時期との検知度は変わるのではないかと心配していますが、どうなのでしょう。

【会長】

いかがでしょうか。

【都市整備課長】

今ご意見いただきました街路樹の葉っぱについてであります。資料2ページ(3)⑤周囲認識機能に記載しておりますが、今回の車両はライダーやミリ波レーダー、またカメラなどによって周囲の障害物等を認識することになっております。そのうち落ち葉等を障害物として認識してしまうかどうかということにつきましては、事前に準備走行を行いますので、準備走行の段階で確認して、必要があれば対応を考えていきたいと考えております。以上であります。

【会長】

いかがでしょう。多分落ち葉等の問題ではなくてむしろ葉っぱが茂ってる時に、周囲の視認性に影響が出ないかということだと思います。

【深堀委員】

はい。おっしゃる通りです。

【会長】

葉っぱが密になってる時期に車両の装置である検知機能というのがまた変わってしまうものではないかと心配した意見も参考にいただければと思います。

建築限界まで多分枝下はカットされてると思いますが、やはり葉っぱが茂った時の影響があるんじゃないかというご指摘ですので、ご参考にいただければと思います。

【都市整備課長】

はい。

【会長】

ありがとうございます。よろしいですか。

【深堀委員】

はい。

【会長】

他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

私の方から、この赤と水色のルートというのは、今のこまくるとか路線バスではこういう周回ルートと同じ周回ルートっていうのはないのでしょうか。

【都市整備課長】

この桃花台ニュータウンの地域は「こまくる」や民間路線バスの名鉄バスやあおい交通の桃花台バスが運行しておりますが、この周回するルートは設定されておられません。

今回、外縁道路ということで比較的走行しやすいルートを選定させていただきました。一部民間の路線バスや「こまくる」と重複する区間はありますが、ダイヤ等については今後調整していきたいと考えております。

【会長】

読ませていただくと、特に巡回ルートの成立性みたいなところは検証対象にはなっていないということですか。

【都市整備課長】

民間路線バスに与える影響などについても一般交通と同様に検証していきたいと考えております。

【会長】

なるほど。わかりました。

【小柳委員】

第1回目は市街地でやっていただいて、それぞれの調査・検証ができたと思います。今回形態の違うある程度整備された桃花台で自動運転の調査をしていただくということは、次のステップへの参考になるのではないかと思います。

今回日にちを伸ばしてやっていただけるわけですから、ぜひ、地域の学校にも宣伝をしていただいて、未来を担う子どもたちに乗車の経験をしてもらえよう努力をお願いしたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。他いかがでしょう。子どもがどんな評価をするかということも楽しみですので、未来社会に対してということでもよろしくをお願いしたいと思います。

それでは引き続いてその他の項目が(4)でございますけれども、事務局何かございますでしょうか。

【東部まちづくり推進室長】

私の方からその他として1点次回の審議会の開催の予定につきましてお話をさせていただきます。今の予定では、第14回の次回審議会は令和7年3月に行う予定をしております。詳細につきましては決まり次第ご案内させていただきます。よろしくお願いいたします。

【会長】

それともう1点。1月26日の発表会は間違いないでしょうか。

【東部まちづくり推進室長】

間違いないです。

【会長】

東部に関係してる会議としてはその2つですね。

ありがとうございます。他、この際ですから皆さん何かございますでしょうか。

【落合委員】

東部まちづくりにつきましては、相当浸透してきたなと思いますしスマートインターにつきましても、報告の中で大分進んできたというお話等もございましたが、これについて1つだけ要望という形になりますが、以前はスマートインターの計画の中で、地下水を汲み上げて使うような話を聞きましたので、水質検査だけは相当深いところまで掘ってたびたび検査をしていただきたいと思います。

地下水を汲み上げて「特に法的に問題ないよ」、「開発するのもいいよ」ということであれば、水処理と水質検査をきちっとしていただきたいということと、サービスエリアでは、やはり上水なり、あの辺は愛知用水のポンプ場があり愛知用水が来てると思いますので、もし水質がよくないのであれば愛知用水の一部を綺麗にして使うとかといった形で、水に関して特に神経を使ってやっていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

【会長】

ありがとうございます。

今少し要望がございましたが事務局の方、何かそれに対して答弁ございますか。

あそこの開発民間事業ということで進められておりますが、水処理は非常に重要ということで、聞き置くということでもよろしいでしょうか。

【東部まちづくり推進室長】

ただいま落合委員からいただいたご意見につきましては聞き置くこととさせていただきます。

いと思いますのでよろしくお願いします。

【落合委員】

はいわかりました。ありがとうございます。

【会長】

他はいかがでしょう。よろしいでしょうか。

【審議会委員全員】

はい。

【会長】

それでは、今日予定をしておりました案件に関しては、すべて終了したかと思います。

1つお願いなのですが、東部地域の進捗管理に関しては非常にわかりやすくご報告いただいておりますが、あとの報告案件は、結構長大なものであるため非常に説明しにくいとは思いますが、今後もこういう機会があれば、できましたら必要などだけを抜き刷りするような形でご報告をいただければと思います。前回ここで議論を受けて、全体像のここを修正しましたという修正箇所だけご説明いただいてもなかなか皆さん方、前回のことをすべて覚えてるかというわけではありません。報告案件に関しては、もう少しわかりやすいような形でご報告いただけるようよろしくお願いします。今日も、多分報告案件の方はやや意見が出にくいのは、わかりにくいところがあるかと思いますがよろしくお願いします。よろしいでしょうか。

【会長】

これをもちまして私の方の進行は、おかげさまで順調に進んだと思っております。ありがとうございます。事務局の方にお返ししたいと思います。

【都市政策部次長】

本日は長時間にわたりご議論いただき、誠にありがとうございました。

本日の会議の会議録につきましては、事務局にて作成次第、委員の皆様へ送付し、内容の確認をしていただきたいと思いますのでご協力お願いいたします。

第13回小牧市東部まちづくり審議会にご出席をいただき、誠にありがとうございました。最後に事務局より交通安全についてをお願いをさせていただきます。

この時期は日没が早くなり夕暮れ時から夜間にかけての交通事故の発生が危惧されますので、早めのライト点灯や夜間運転手のハイビームの活用を行い、歩行者は明るい服装や反射材を着用するなどして交通事故抑止に努めていただきますようお願いいたします。

以上をもちまして、第13回小牧市東部まちづくり審議会を閉会いたします。本日はありがとうございます。